

<テーマ> 電子黒板を活用し、互いの考えを伝え合わせた取組

(白石市立白石第一小学校)

### 1 実施単元

『かけ算(2)』 [ 東京書籍 2年下巻 p29～49 ]

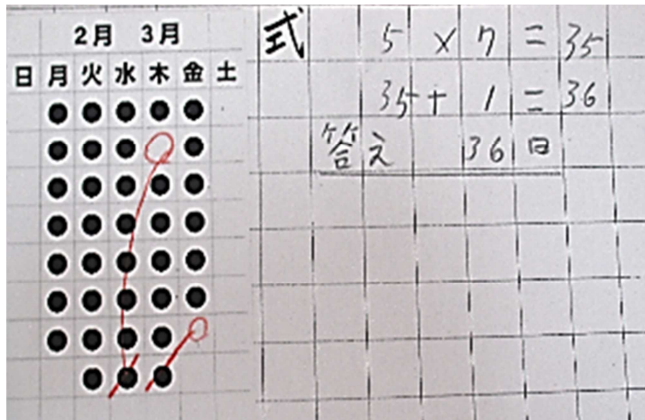
### 2 単元のねらい

乗法についての理解を深め、それを用いることができるようにする。

### 3 指導改善の手立て

数学的な思考力を身に付けさせるために、児童の考えの共有化を図る。そのために、三つの手立てをとる。一つ目は、アレイ図の活用である。アレイ図に表すことで同じ数のまとまりに気づきやすくし、自分の考えをもつことができるようにする。二つ目は、活発な話し合いをさせるための学習形態の工夫である。図をもとに立式できた児童同士で自分の考えを伝え合わせる。伝えることを通して、自分の考えをより明確にするとともに、それぞれの考えの共有化を図る。三つ目は、電子黒板を活用した話し合いである。図への書き込みを見ることで、どのような考えで式を立てたのかを予想したり、新たな考えに気付いたりさせることができる。自力解決の時間に考えをまとめられなかった児童は、友達のことを聞くことで本時のねらいに近づくことができる。そして、話し合いで出た考えについては、キーワードを意識して黒板にまとめることで、振り返ることができるようにする。

### 4 指導の実際



本時の学習では、「カレンダーから登校日数を求める」という課題をもとに、カレンダーをアレイ図に置き換えさせた。そうすることで、考えを書き込みやすくなり、児童自らが、色分けしたり、図のまとまりと式を分かりやすく表したりすることができた。(右図)

(図 : 児童が表したアレイ図と立式)



電子黒板に児童の考えを書き込ませ、書き込みを見た他の児童に考え方を発表させた。このようにして多くの児童に話させることで、考えを伝え合う機会を増やすことができた。

また、電子黒板のアレイ図を色分けして、まとまりを作ることで、分かりやすくまとめることができ、考えの共有化を図ることができた。(右図)

(図 : 電子黒板に考えを書き込む児童の様子)